

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>第34回ユーグレナ研究会（2018年11月24日、沖縄県石垣島）</p>
<p>演題名</p>	<p>青色光照射の及ぼす<i>Euglena gracilis</i>のカロテノイド組成や光合成活性への影響</p>
<p>発表者</p>	<p>○※丹野夕麗 1)、加藤翔太 2) *、高橋宣治 1, 2)、高市真一 3)、園池 公毅 4)、児玉豊 5)、篠村知子 1, 2)                  所属：1) 帝京大・院・理工、2) 帝京大・理工・バイオ、3) 東京農大・生命科学、4) 早稲田大・教育、5) 宇都宮大・バイオセンター                  *現在の所属は、Center for Plant Aging Research, Institute for Basic Science DGIST, Korea                  (登壇者には○、卒研生または大学院生には※、本学教職員、研究員にはアンダーライン)                  【植物分子細胞学研究室】</p>
<p>内容</p>	<p>本学の大学院生（博士課程前期2年）の丹野君が、微細藻類<i>Euglena gracilis</i>（以降ユーグレナ）のカロテノイドの機能とその光調節機構に注目して研究した成果を発表しました。これまでに私たちは、青色光照射がカロテノイド分子種の蓄積量や組成比を変化させることを明らかにしてきましたが、今回は、そのようなカロテノイド合成の変化が光合成活性や強光ストレス耐性に及ぼす影響について調べました。その結果、青色光を強度3 <math>\mu\text{mol photons m}^{-2} \text{s}^{-1}</math>で照射した実験区は青色光処理をしなかった実験区（対照区）と比較して<math>\beta</math>-caroteneの蓄積のみが約20%増加し、光合成活性も高くなることを明らかにしました。本研究の一部は科学研究費補助金(基盤研究C 17K07945)の支援を受け、学内外の研究者と共同で行いました。                  本発表により、本学理工学研究科M2の丹野夕麗君が、本研究集会における若手優秀発表賞を受賞しました。昨年の受賞に続く2年連続の受賞となりました。</p>
<p>関連画像</p>	